

市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(8)

市内遺跡発掘調査概報14

2021
中津市教育委員会

市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査 (8) 市内遺跡発掘調査概報14

中津市文化財調査報告 第104集

2021

中津市教育委員会

市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(8)

市内遺跡発掘調査概報14

2021

中津市教育委員会

例 言

1. 本書は大分県中津市教育委員会が2020年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の調査概報である。
2. 調査は令和2年度国宝重要文化財等保存・活用事業費および令和2年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

3. 調査主体 中津市教育委員会

調査責任者 粟田 英代 (中津市教育委員会教育長)

調査指導委員会 中村 修身 (北部九州中近世城郭研究会名誉会長)

宮武 正登 (佐賀大学教授)

長野 淳雄 (中津市文化財調査委員会委員長)

小柳 和宏 (大分県立埋蔵文化財センター非常勤職員)

三重野 誠 (大分県教育庁文化課参事)

調査指導 井 大樹 (大分県教育庁文化課主事)

事務局 大下 洋志 (中津市教育委員会教育次長)

岩丸 祐子 (同 社会教育課長)

河野さくら (同 管理・文化振興係主幹)

田中 茂 (同 管理・文化振興係主幹)

速水 誠 (同 管理・文化振興係員)

藤原 梨恵 (同 管理・文化振興係員)

調査、調査事務 高崎 章子 (同 歴史博物館長)

花崎 徹 (同 副館長兼博物館・文化財係主幹)

浦井 直幸 (同 博物館・文化財係員)

丸山 利枝 (同 博物館・文化財係員)

三谷 紘平 (同 博物館・文化財係員)

衛藤 美紀 (同 博物館・文化財係員)

曾我 俊裕 (同 博物館・文化財係員)

末永 弥義 (同 博物館・文化財係会計年度任用職員)

4. 市内遺跡試掘確認調査は花崎・丸山・末永・浦井が行い、中近世城館確認調査は浦井が行った。
5. 遺構の実測、写真撮影などは調査担当者が行った。
6. 本書の執筆は第1章、第2章1、(3)(4)②・③(7)(9)、第3章を浦井が、第2章(1)(2)(6)を丸山が、第2章(5)①・②、(8)を花崎が、第2章(4)①を末永が行った。
7. 本書の編集は浦井が行った。

目 次

第1章	遺跡の位置と環境	1
第2章	市内遺跡試掘確認調査	
	1. 今年度の調査概要	3
	(1) 相原平畑遺跡	4
	(2) 長者屋敷官衙遺跡	5
	(3) 亀山古墳	9
	(4) 沖代地区条里跡	10
	(5) 中津城下町遺跡	12
	(6) 成恒笹原遺跡	13
	(7) 福島遺跡	13
	(8) 東浜遺跡	14
	(9) 加来地区	14
第3章	中近世城館確認調査	15

報告書抄録

図 版 目 次

第 1 図	中津市内主要遺跡分布図	2
第 2 図	試掘確認調査位置図	3
第 3 図	相原平畑遺跡トレンチ配置図	4
第 4 図	長者屋敷官衙遺跡位置図	6
第 5 図	長者屋敷官衙遺跡立会調査箇所図	6
第 6 図	長者屋敷官衙遺跡立会調査区 A 区	7
第 7 図	長者屋敷官衙遺跡立会調査区 B 区	7
第 8 図	亀山古墳調査区位置図	9
第 9 図	沖代地区条里跡①調査区位置図	10
第 10 図	沖代地区条里跡②調査区位置図	10
第 11 図	沖代地区条里跡③調査区位置図	11
第 12 図	中津城下町遺跡①調査区位置図	12
第 13 図	中津城下町遺跡②調査区位置図	12
第 14 図	成恒笹原遺跡調査区位置図	13
第 15 図	福島遺跡調査区位置図	13
第 16 図	東浜遺跡調査区位置図	14
第 17 図	加来地区調査区位置図	14
第 18 図	中近世城館報告箇所位置図	15
第 19 図	御澄池周辺遺跡縄張り図	16
第 20 図	三光上深水地区縄張り図	17

写 真 目 次

写真 1	相原平畑遺跡着手前全景	4
写真 2	相原平畑遺跡Bトレンチ	4
写真 3	相原平畑遺跡Eトレンチ	4
写真 4	長者屋敷官衙遺跡立会調査区A区	8
写真 5	長者屋敷官衙遺跡立会調査区B区	8
写真 6	長者屋敷官衙遺跡立会調査区D区	8
写真 7	亀山古墳1トレンチ	9
写真 8	亀山古墳3トレンチ	9
写真 9	亀山古墳4トレンチ	9
写真10	沖代地区条里跡①トレンチ	10
写真11	沖代地区条里跡②2トレンチ	10
写真12	沖代地区条里跡③1トレンチ	11
写真13	沖代地区条里跡③1トレンチ	11
写真14	沖代地区条里跡③1トレンチ東壁	11
写真15	中津城下町遺跡①トレンチ状況	12
写真16	中津城下町遺跡②トレンチ状況	12
写真17	成恒笹原遺跡堆積状況	13
写真18	福島遺跡1トレンチ	13
写真19	東浜遺跡トレンチ状況	14
写真20	加来地区1トレンチ	14

第1章 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万4千人、面積約490km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

2. 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡(19)で発見されている。

縄文時代 上畑成遺跡(47)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が検出され注目された。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壙墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。

古墳時代・古代 亀山(亀塚)古墳(58)が挙げられるが、調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀前半には山国川に面する勘助野地遺跡(12)で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群(11)が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(49)や定留遺跡(51)でまとまって発見されている。古代には7世紀末に百済系の相原廃寺(5)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡(37)、踊ヶ迫窯跡(38)、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡(6)がある。

中世 長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原遺跡 | 25. 福島遺跡 | 37. 草場窯跡 | 49. 諸田遺跡 |
| 2. 中津城下町遺跡 | 14. 大池南遺跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ迫窯跡 | 50. 定留貝塚 |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡 | 27. 前田遺跡 | 39. ホヤ池窯跡 | 51. 定留遺跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知遺跡 | 28. 森山遺跡 | 40. 大谷窯跡 | 52. 天貝川遺跡 |
| 5. 相原廃寺 | 17. 槇遺跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡 | 53. 和間貝塚 |
| 6. 三口遺跡 | 18. 黒水遺跡 | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 田尻大迫遺跡 |
| 7. 相原山首遺跡 | 19. 法垣遺跡 | 31. 畑中遺跡 | 43. 中須遺跡 | 55. 是則遺跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡 | 44. 若旗遺跡 | 56. 全徳遺跡 |
| 9. 坂手隈横穴墓群 | 21. ボウガキ遺跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 十前垣遺跡 | 57. ガラヌノ遺跡 |
| 10. 幣旗邸古墳 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 野田遺跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原遺跡 | 35. 才木遺跡 | 47. 上畑成遺跡 | 59. 石堂池遺跡 |
| 12. 勘助野地遺跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山窯跡群 | 48. 諸田南遺跡 | 60. 舞手川流域遺跡 |

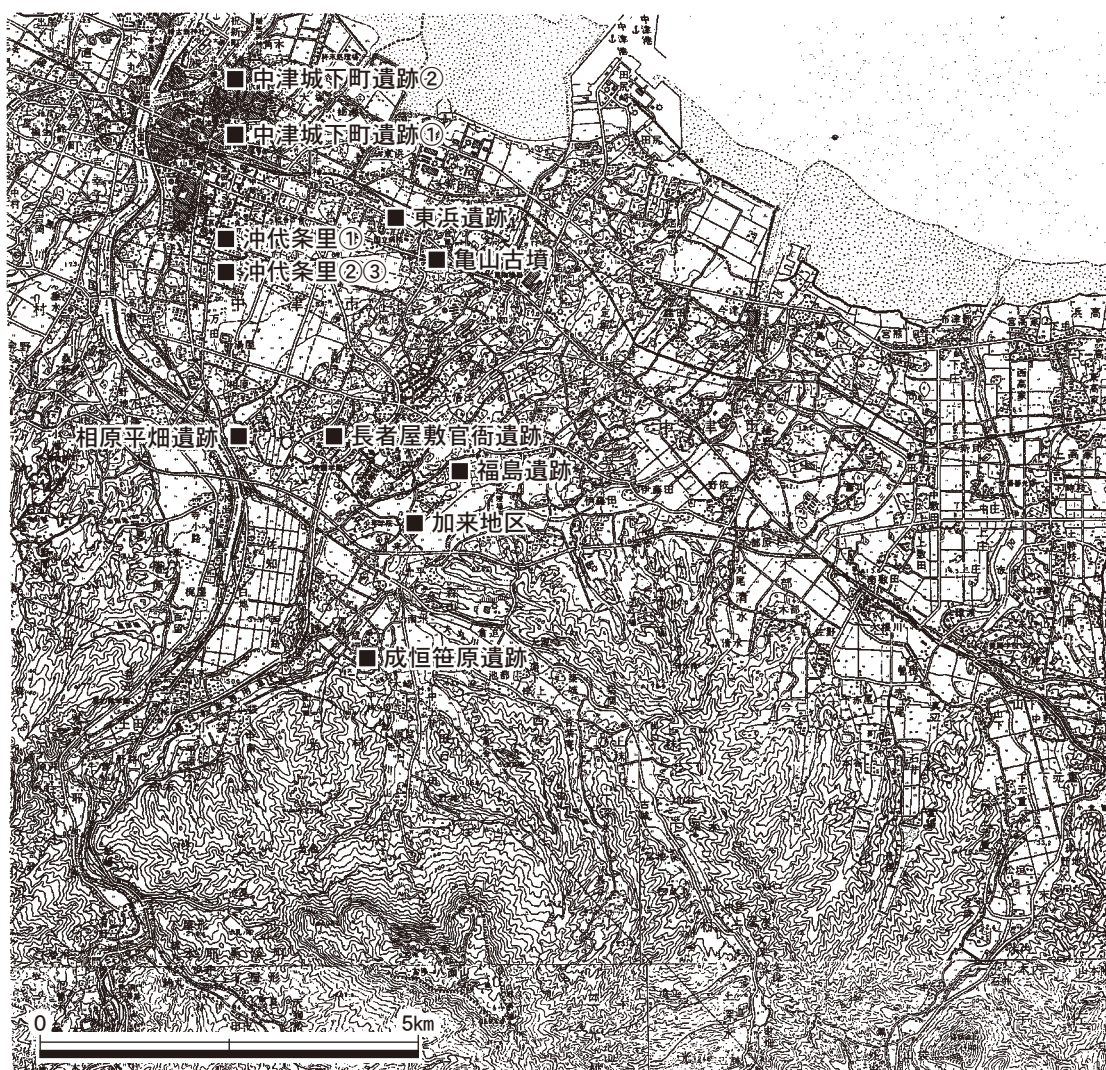
第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第2章 市内遺跡試掘確認調査

1. 今年度の調査概要

令和3年1月末時点の市内における埋蔵文化財包蔵の照会件数は958件を数える。前年同月よりやや減少している。文化財保護法93条・94条第1項の届出・通知は162件提出されており、これは前年度より16件減少している。93条の届出がなされた遺跡は沖代地区条里跡が最も多く88件。次いで中津城下町遺跡24件であり、沖代地区条里跡の開発が進む。主な工事内容は個人住宅建設と集合住宅建設であり、大半が旧市内における開発である。

以下、補助を受け調査した8遺跡12地点について報告する。



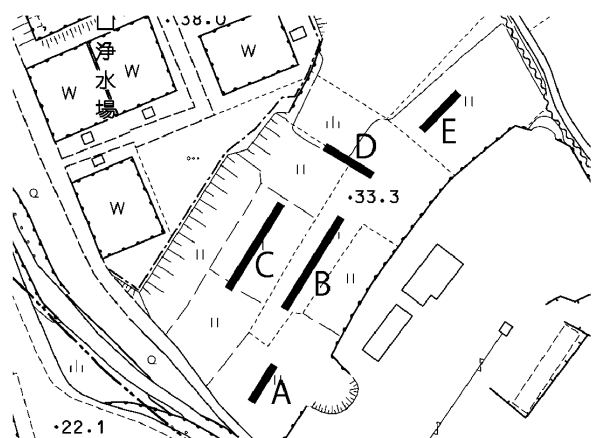
第2図 試掘確認調査位置図 (S=1/100,000)

(1) 相原平畑遺跡

令和2年4月21日、中津市上下水道事業に伴い、中津市大字相原3144番地6外において配水池を新設する内容の文化財保護法第94条第1項の通知が中津市長より提出された。大分県教育委員会教育長より令和2年5月12日付け埋蔵文化財発掘の通知において、遺跡の取扱いを発掘調査とする通知を受け、中津市教育委員会が確認調査を令和2年5月24日に行った。

調査対象地は山国川が下毛原台地に接して蛇行する段丘の直上に立地する。対象地は水田の休耕地であるが、平成23年度に北西部の一面で試掘調査が行われ、中世の集落関係の遺構が確認されている。今回の調査では築造される配水池3ヶ所に5本のトレンチ（南側からA～Eトレンチ）を設定し、遺構・遺物の確認を行った。調査面積は104.5㎡である。

設定したトレンチはすべて幅1.0mで、長さはAトレンチが10m、Bトレンチが30m、Cトレンチが26m、Dトレンチが18.5m、Eトレンチが20mである。深さは最も浅いBトレンチ南端部は0.5m、最も深いDトレンチ中央部は1.2mで基盤層に達した。基本層序はAトレンチ南端の観察結果から、①層：耕作土（厚さ20cm、暗灰色弱砂質土層）、②層：床土（厚さ25cm、灰褐色弱砂質土層）、③層：沖積層（厚さ20cm、暗灰色弱砂質土層）、④層：基盤層（明黄褐色弱粘質土層）となる。遺構の検出は基盤層上面で行ったが、南端の高区配水池に設定したAトレンチではまったく検出されず、中央の低区配水池に設定したB～Dトレンチではピットや小型の溝状遺構が検出され、北端の低区配水池に設定したEトレンチでも大型の溝状遺構等が検出された。これらの遺構の時期は不明である。確認調査の結果を受けて、令和2年7月22日～10月31日の間、本発掘調査を実施した。



第3図 相原平畑遺跡トレンチ配置図



写真1 相原平畑遺跡着手前全景（南西から）



写真2 相原平畑遺跡Bトレンチ（北東から）



写真3 相原平畑遺跡Eトレンチ（南西から）

(2) 長者屋敷官衙遺跡

1. 遺跡の立地 (第4図)

中津市の南東部は下毛原台地と呼ばれる洪積台地となっている。洪積台地上には、南西から北東方向に多数の小規模な谷地形が発達しており、台地上は起伏の多い地形となっている。長者屋敷官衙遺跡の立地もこうした地形を利用し、遺跡の東側と西側は一段低い谷地形となっている。律令の倉庫令に定められた「倉は、みな高く乾燥した処に於くこと。周圍に池渠を開くこと。」という条件を満たす土地を選定したと考えられる。

2. 史跡整備立会調査 (第5図)

史跡長者屋敷官衙遺跡では、平成28年度から史跡整備を行っている。令和2年度は敷地内の水はけを良くするために、史跡内に暗渠排水管を設置し、周辺に排水溝を設置した。工事による掘削を行うため立会を行った。掘削立会時に遺構の有無を確認した。

A区 (第6図)

平成25年度調査区に隣接する。平成20～27年度に確認した遺構の続きを確認した。正倉域を区画する北限の溝 (S-34)、S-34に並行する柱列S-23、溝状遺構S-35、総柱建物S-17、18、26、側柱建物S-27である。S-26は平成27年刊行の本報告で柱列として報告したが、今回の調査で総柱建物となることが分かった。

B区 (第7図)

平成21年度調査区と一部重複する。B区東端部で、東西方向に延びていたS-34が南に90度角度を変えて延びる部分を確認した。平成7年度調査で確認した南側の屈曲部 (S-43) との距離は120mである。

C区

平成21年度調査区に隣接する。中世溝 (八並城の堀) S-46の続きを確認した。

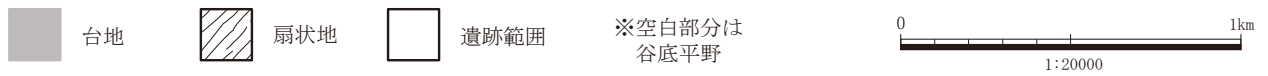
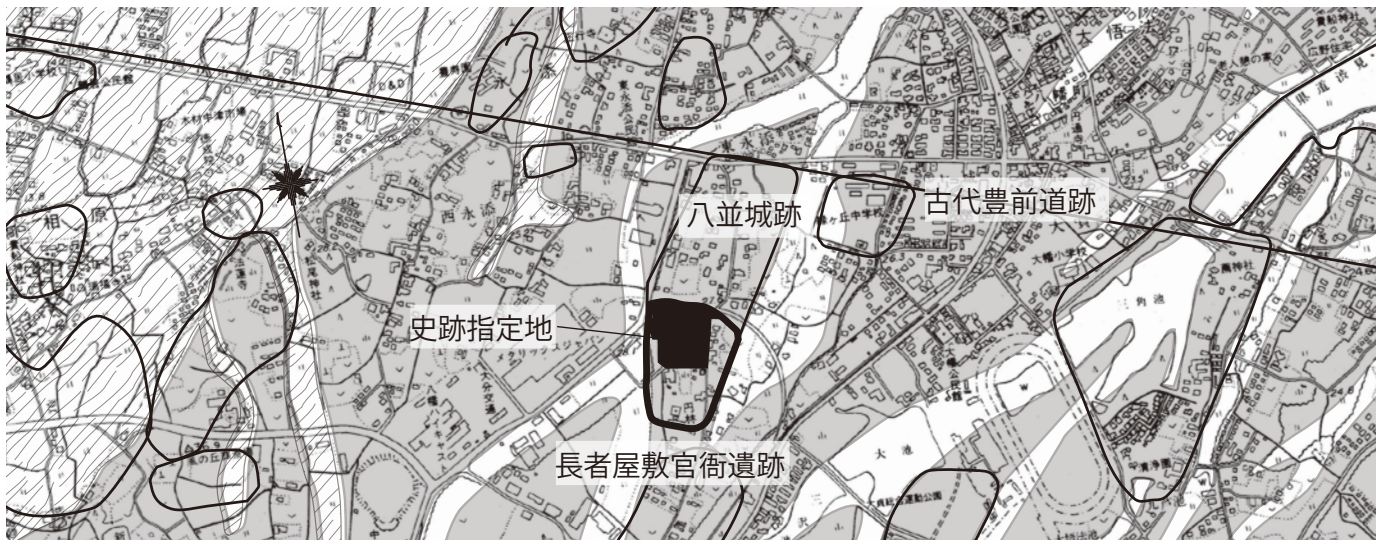
D区

平成22、24年度調査区に隣接する。中世溝 (八並城の堀) S-45、47の続きを確認した。

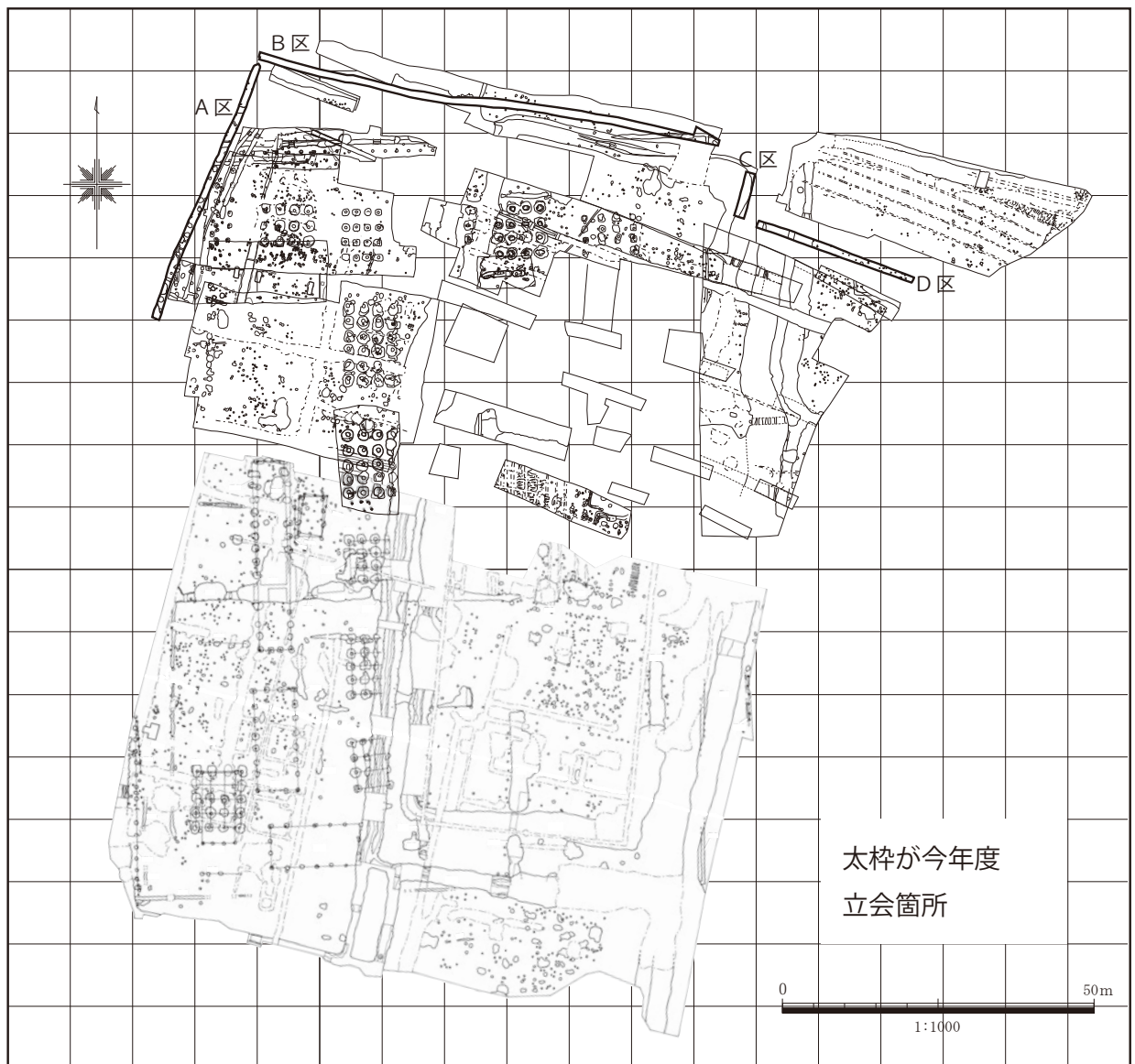
3. まとめ

A区で再確認した総柱建物3棟は正倉域を構成する他の総柱建物と比べると、柱掘り方、柱痕跡の規模が小さく、小規模な倉であったと考えられる。平成25年度の調査では、S-17、18から炭化材、炭化米の出土はなく、S-17から8世紀前半の遺物が出土しているため、早い段階に建てられていたと考えている。しかしそれは正倉域に先行する段階ではなく、敷地の西端に位置し正倉と重複しないことや、東西棟で主軸も他の総柱建物に近いことから、正倉域の配置計画の中に入るものと捉えている。

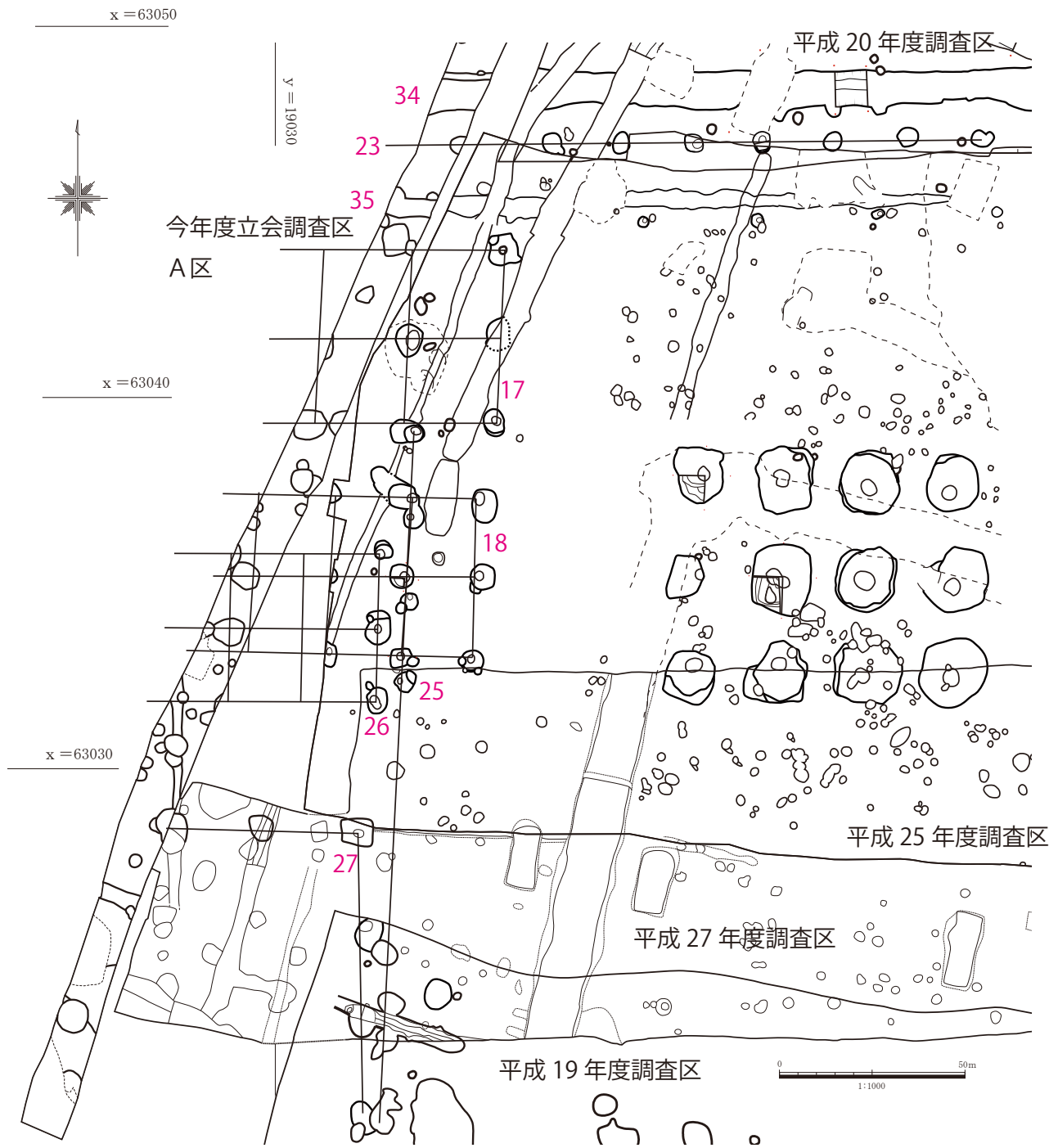
史跡長者屋敷官衙遺跡は、来年度造成工事を終え、今後遺構の平面表示や立体表示を行い史跡広場として生まれ変わる。史跡の価値を高め、かつ市民に親しまれる史跡整備を目指したい。



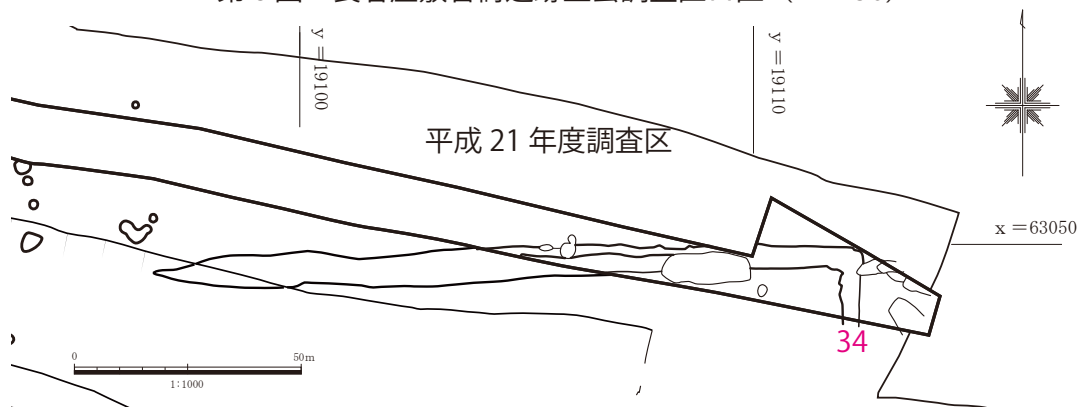
第4図 長者屋敷官衙遺跡位置図 (1:20000)



第5図 長者屋敷官衙遺跡立会調査箇所図 (1:1000)



第 6 図 長者屋敷官衙遺跡立会調査区 A 区 (1 : 150)



第 7 図 長者屋敷官衙遺跡立会調査区 B 区 (1 : 150)



写真4 長者屋敷官衙遺跡立会調査区A区（南から）



写真5 長者屋敷官衙遺跡立会調査区B区（西から）



写真6 長者屋敷官衙遺跡立会調査区D区（東から）

(3) 亀山古墳

令和2年5月22日、中津市大字下池永826、中津市大字合馬451番1外3筆で集合住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。7月2日、建設予定地に計4本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

現地表面から80～90cmで遺構検出面に到達する。1トレンチでは溝状遺構、柱穴状遺構を検出した。2トレンチでは柱穴状遺構を1基確認した。3トレンチでは複数の柱穴状遺構を確認した。4トレンチでは溝状遺構と複数の柱穴状遺構を確認した。造成土は層厚50cm、旧耕作土は層厚20cm、その下に層厚20～30cmの黒褐色土が堆積し、茶褐色の地山に至る。地山は湧水が激しい。

工事により遺構が破壊される場合は、1・3・4トレンチなど遺構密度の高い範囲について本調査の対象としたい。



第8図 亀山古墳調査区位置図



写真7 亀山古墳1トレンチ（東から）



写真8 亀山古墳3トレンチ（東から）



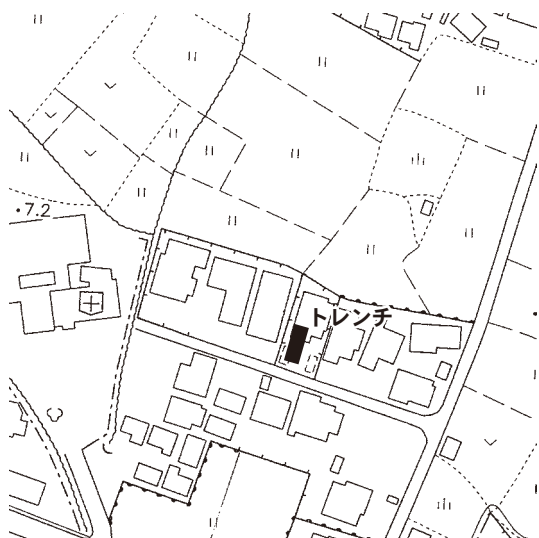
写真9 亀山古墳4トレンチ（西から）

(4) 沖代地区条里跡

①中央町一丁目 754 番 14

令和2年4月13日、中津市中央町一丁目754番14にて個人住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。今回の調査では個人住宅の建築予定地に南北方向のトレンチ1本を設定し、遺構・遺物の確認を行った。設定したトレンチは幅1.0m、長さ8.0mである。基盤層までの深さは1.8mである。基本層序はトレンチ南端部の観察結果から、①層：造成土（厚さ110cm、明灰黄色弱砂質土層）、②層：耕作土（厚さ15cm、黒色弱砂質土層）、③層：沖積土（厚さ55cm、暗灰色弱砂質土層）、④層：基盤層（黄灰色弱粘質土層）となる。沖積土と基盤層の境からは湧水がみられた。

遺構の検出は基盤層上面で行ったが、まったく検出されなかった。



第9図 沖代地区条里跡①調査区位置図

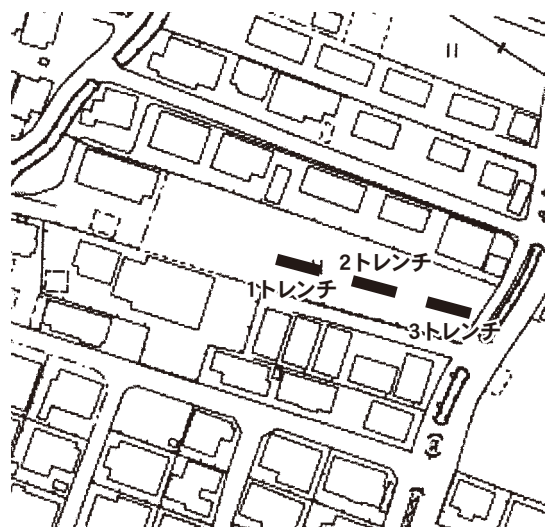


写真10 沖代地区条里跡①トレンチ（北から）

②中央町二丁目 776 番 1

令和2年11月6日、中津市中央町二丁目776番1にて集合住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。令和2年12月15日、建物建設範囲外の南に3本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

各トレンチでは地表面下60cmにて茶褐色の地山を検出した。表土から30cmは茶褐色砂質土が堆積し、その下30cmは灰褐色砂質土層であった。遺構・遺物は確認できなかった。



第10図 沖代地区条里跡②調査区位置図



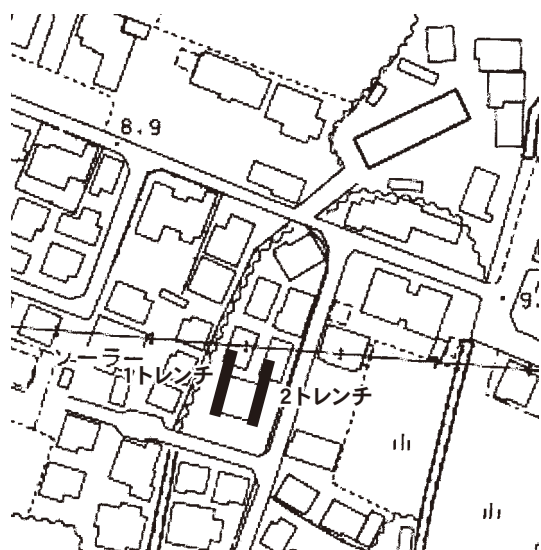
写真11 沖代地区条里跡②2トレンチ（東から）

③中央町二丁目 637 番 1 外 2 筆

令和 2 年 7 月 16 日、中津市中央町二丁目 637 番 1 外 2 筆にて集合住宅建設に伴う文化財保護法第 93 条第 1 項の届出が提出された。現地には古い集合住宅が建設されていたが、今回それを取り壊し新しい集合住宅を建設する計画とのことで、建屋位置に 2 本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

地表面下 30cm はバラス、その下 10cm は近代の造成土、その下 25cm は暗茶褐色砂質土であった。地山は茶褐色砂質土でしまりはよかった。溝状遺構 1 条、柱穴状遺構 1 基を 1 トレンチにて確認した。溝状遺構は幅 2 m、長さ約 6 m で東へ 60 度傾き、表面から 6 世紀中頃と考えられる土師器の壺の破片 1 点が出土した。

工事は遺構面まで達しないことから工事着工可とした。



第 11 図 沖代地区条里跡③調査区位置図



写真 12 沖代地区条里跡③ 1 トレンチ (南から)



写真 13 沖代地区条里跡③ 1 トレンチ (南から)



写真 14 沖代地区条里跡③ 1 トレンチ東壁

(5) 中津城下町遺跡

①中津市蛭子町3丁目26外10筆

令和2年6月22日、集合住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。対象地は中津城下町遺跡の東南部に位置し、城下町の外堀の存在が期待された。7月15日に2m×10mのトレンチを4本掘削し確認調査を実施した。約65cmで灰黄褐色の基盤層に達した。遺構・遺物とも確認できず調査は終了した。



第12図 中津城下町遺跡①調査区位置図



写真15 中津城下町遺跡①トレンチ状況(南から)

②中津市339番地

令和2年7月27日、中津市339番地の市道拡幅工事に伴う文化財保護法第94条第1項の通知が提出された。対象地は中津城下町遺跡で外堀の外側に位置する。幕末の絵図には家屋は存在しない。8月19日、2m×10mのトレンチを1本掘削し、確認調査を実施した。約70cmが近代の造成土で、この下層で黄褐色の整地層に達した。遺物、遺構は検出されなかったが、周辺の発掘状況から近世の整地層と判断した。これより下層を一部掘り下げたが、遺物・遺構は検出されず、確認調査を終了した。



第13図 中津城下町遺跡②調査区位置図

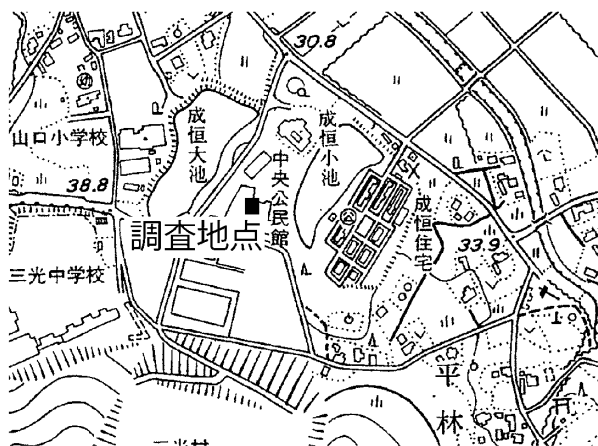


写真16 中津城下町遺跡②トレンチ状況(北から)

(6) 成恒笹原遺跡

令和2年7月6日、中津市長より中津市三光成恒421番地1外において公民館建設の内容で文化財保護法第94条第1項の通知が提出された。これを受けて、大分県教育委員会教育長より遺跡の取扱いを発掘調査とする通知が出されたため、中津市教育委員会が9月22日に確認調査を行った。

調査対象地は、古墳時代のミニチュア土器が見つかった地点の一段高い地点にある。現在施設の中庭となっている部分であり、増築予定地にトレンチを2本設定して調査を行った。調査面積は16.5㎡である。結果、現況下40cmの造成土の下に基盤層を確認した。包含層は確認していない。施設建設か、三光総合運動公園造成時に大幅に削られたと考えられる。



第14図 成恒笹原遺跡調査区位置図

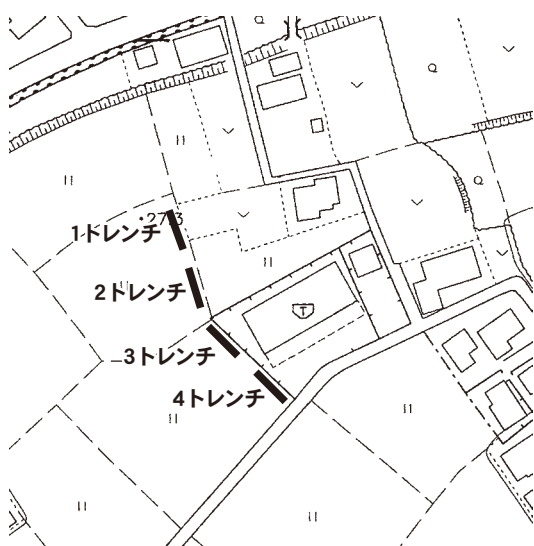


写真17 成恒笹原遺跡堆積状況（東から）

(7) 福島遺跡

令和2年6月15日、中津市長より中津市大字福島762番地1付近から723番地1付近における農道拡幅工事の内容で文化財保護法第94条第1項の通知が提出された。4本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

1～3トレンチでは地表面下40cmにて茶褐色の地山を検出した。4トレンチでは北から南にかけて地山が傾斜しており、厚さ70cmほどクロボク層が堆積していた。すべてのトレンチにおいて遺構・遺物は確認できなかった。



第15図 福島遺跡調査区位置図

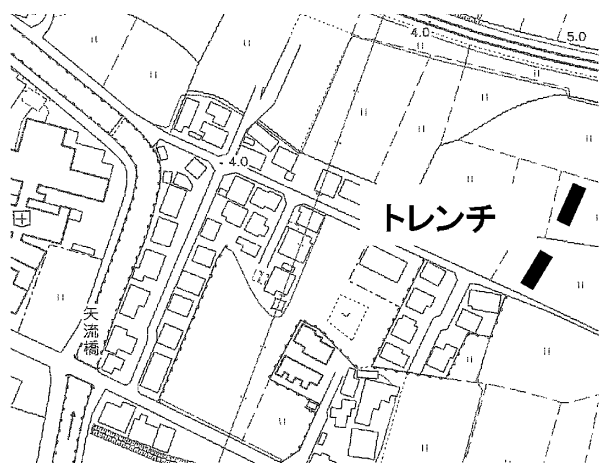


写真18 福島遺跡1トレンチ（南から）

(8) 東浜遺跡

令和2年8月7日、中津市大字東浜128番地外にて市道新設工事に伴う文化財保護法第94条第1項の通知が提出された。対象地は東浜遺跡の南東部に位置する。11月4日に2m×10mのトレンチを2本掘削し、確認調査を実施した。

表土より約30cmは現在の耕作土で、この下層で黄褐色の地山を検出した。遺構・遺物は検出されず確認調査を終了した。



第16図 東浜遺跡調査区位置図



写真19 東浜遺跡トレンチ状況（南から）

(9) 加来地区

中津市役所耕地課は中津市大字加来219番外3筆にて農道新設を計画した。令和2年12月17日、予定地に計2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

1トレンチでは溝状遺構を1条検出した。溝のコーナー部と思われる。遺物は瓦質土器片を散見した。2トレンチでは、形状不明の大規模な遺構を検出した。遺物は須恵器小片を散見した。令和3年2月より本調査を実施した。



第17図 加来地区調査区位置図



写真20 加来地区1トレンチ（北から）

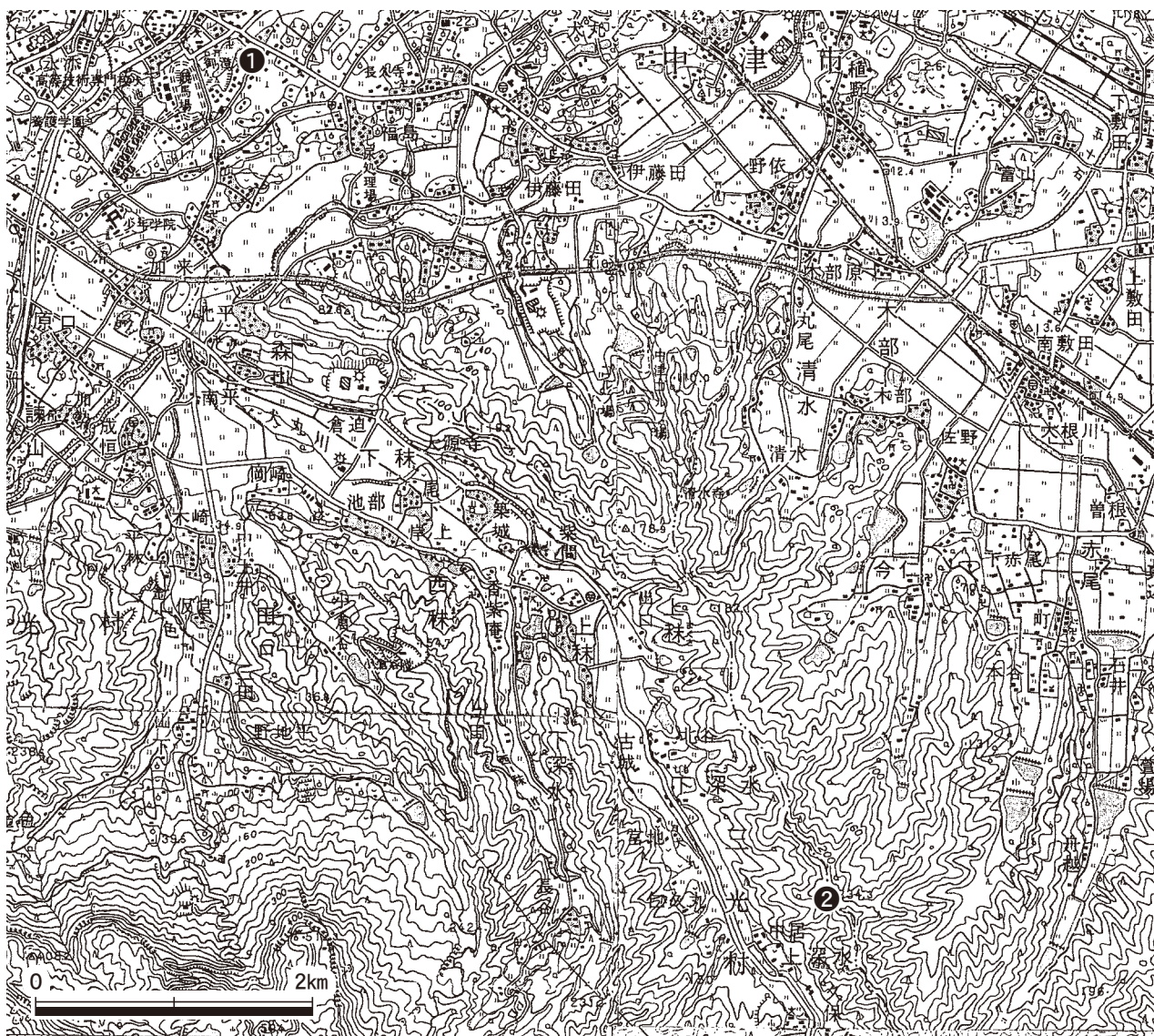
第3章 中近世城館確認調査

1. 調査の経緯

大分県教育委員会は平成7年度～15年度まで県内全域を対象に中近世城館の確認調査を実施した。中津市は平成25年度から県調査が手薄であった旧下毛郡部を中心に市内全域の詳細不明城館の探索、及び既知の城館の再確認を行っている。開発への備えや重要城館の指定化を目的に本事業は進められている。

2. 調査の経過

今年度はコロナ禍のため本来予定していた月から大幅に遅れた10月に調査委員会を開催した。城館の指定・周知遺跡化、城館名称、報告書の刊行などを議題とした。縄張り図の作成は約40地点行い、順次トレース作業も行った。以下、御澄池周辺遺跡と三光上深水地区の調査について述べる。



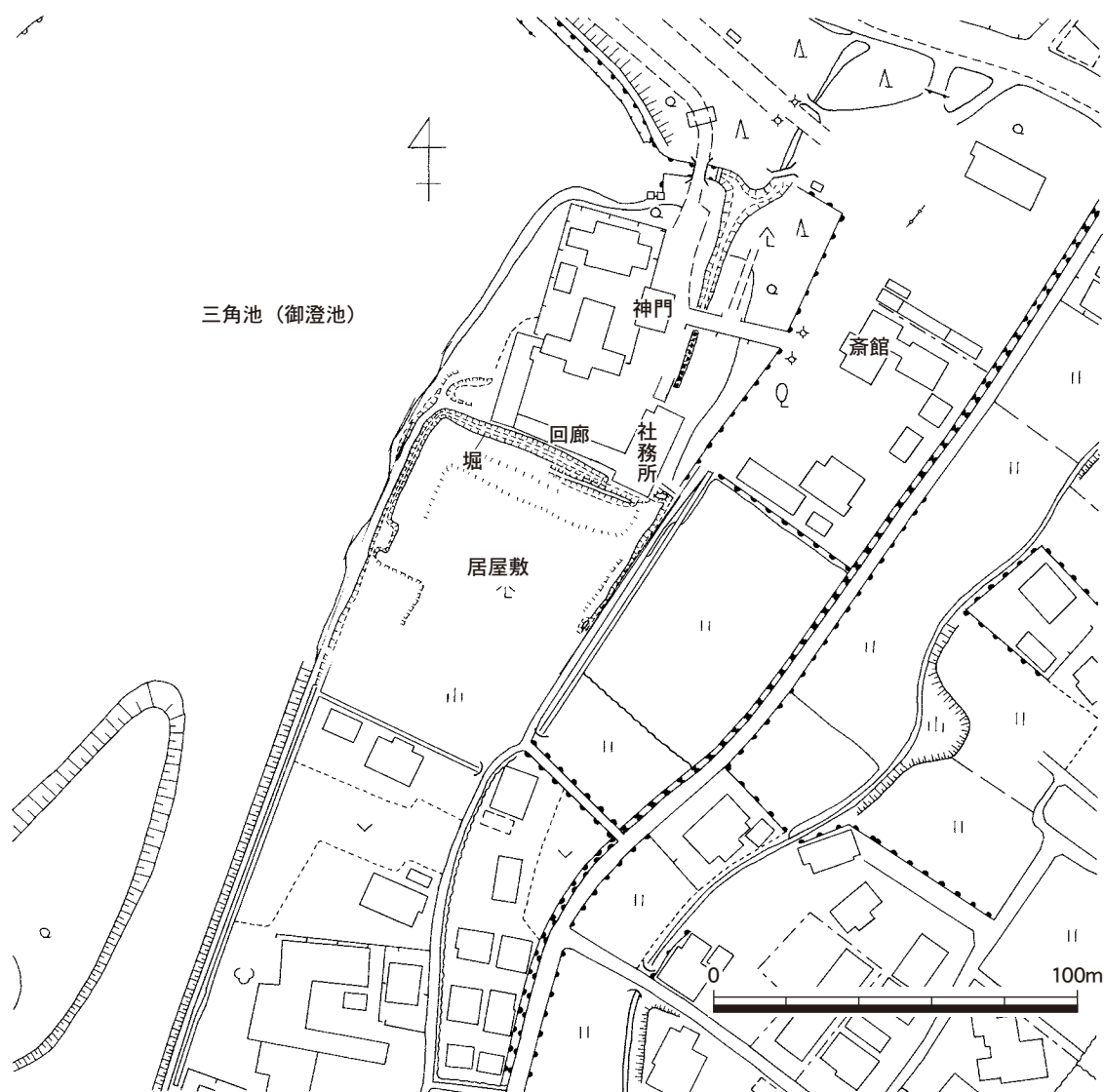
第18図 中近世城館報告箇所位置図 (S=1/50,000)

①御澄池周辺遺跡

御澄池周辺遺跡は中津市大字大貞に所在し宇佐八幡宮の古社として知られる薦神社を包含する遺跡である。薦神社の社殿は承和年中（834～848）には造営されたという。元暦元年（1284）、緒方おがた惟榮これよしにより社殿は破壊されたが、室町時代には周防・長門の守護大内氏が社殿を再興した。慶長5年に入部した細川氏は元和年間（1615～24）に本殿・楼門（現在の神門）を造営した（真野1999）。

今回確認した遺構は、回廊と社務所の南に所在する。回廊に近接し、東西方向に長さ60m、幅2～3m、深さ1～1.5mの堀跡があり、南側に土塁を伴う。堀は南に広がる竹林一帯を囲む。西端は三角池の手前で屈曲し南下する。途中、方形に膨らむ空間があるが、これについては後世による改変か否か判断できていない。竹林の東は高さ50cm程度の土塁が遺存し、南端部は平面方形を呈し以南は欠失する。土塁東直下は薦神社齋館に至る細道があり竹林側に細い溝が並走する。この溝は堀の痕跡と考えられ、細道は堀を埋め立てて敷設された可能性が高い。一方、社務所の北側も細い溝が走り、北側の三角池からの取水口付近でその幅を広げる。薦神社には江戸期の製作と考えられる古絵図が残されており、回廊南の空間は「居屋敷」とされている。確認した堀は、この居屋敷を囲うものと考えられる。

参考文献）真野和夫「薦神社の歴史」写真集薦神社神門篇 薦文化財研究所 1999

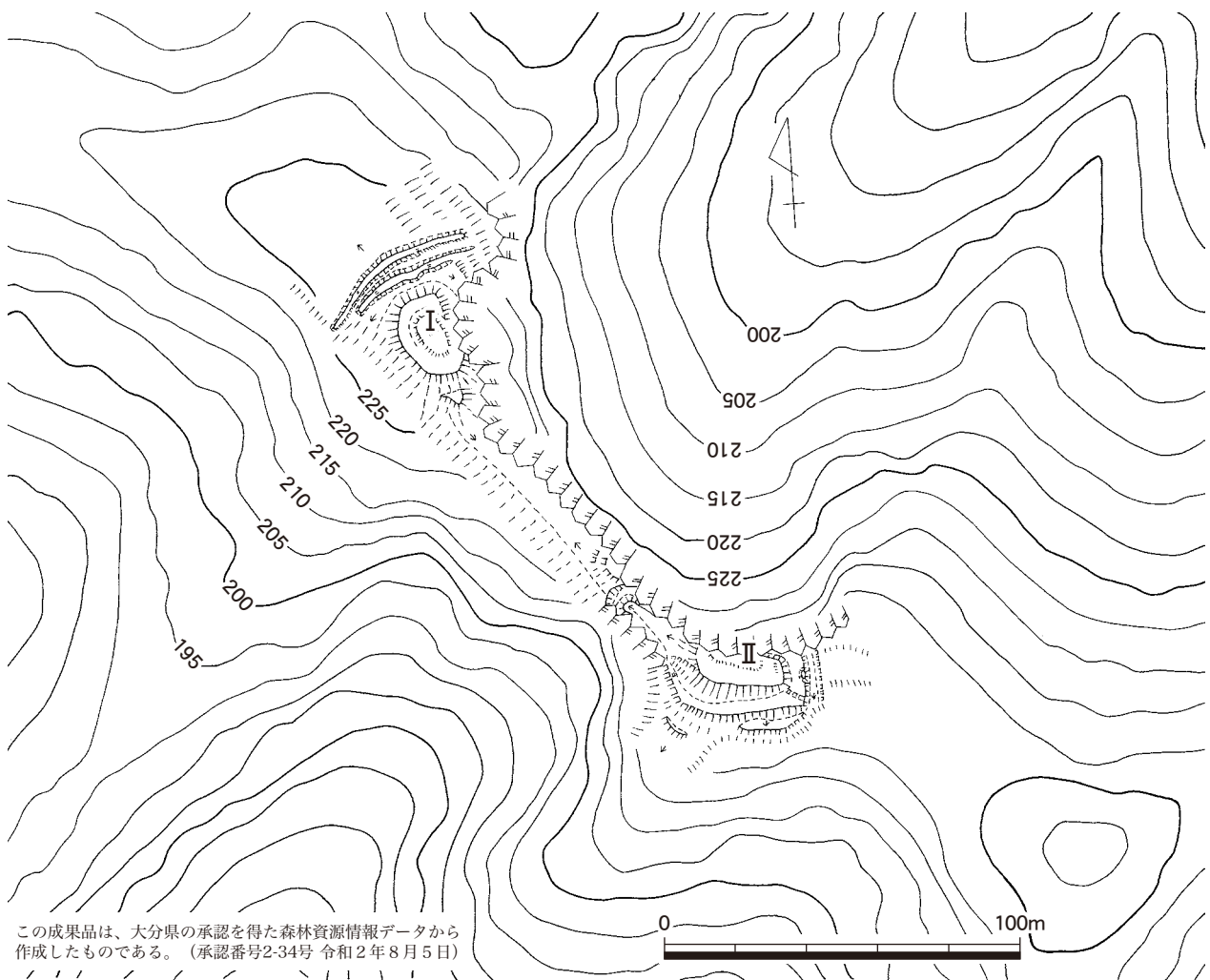


第19図 御澄池周辺遺跡縄張り図 (S=1/2,000)

②三光上深水地区

三光上深水に観音山という山（図の最高所Ⅰ）がある。Ⅰは楕円形状の高まりがあるが明確な段を有していない。周囲は腰曲輪が廻り、北西側は堀切2本と土塁2本があり尾根を遮断する。Ⅰの北東側は急崖になり下から人は登ることはできない。尾根鞍部を南東に下ると堀切が構築されており、それを越えると平坦を意識して造成された曲輪Ⅱがある。この部分の遺構の存在は元三光地域おこし協力隊の秦忠広氏によりご教示いただいた。Ⅱの東には小さな土塁を伴う堀切がある。南側は帯曲輪を巡らし、一部2段構築とする。堀切を東に越えると高所があり、それを南に下ると堀切状の地形があるが、北側に延びる道とつながっており城郭遺構ではないと判断している。また、最高所Ⅰから土塁・堀切を越えて北西へ進むと、宇佐と中津の郡界として構築されたと思われる土塁があり、細尾根部分は堀切状に削られている。この箇所は北側からの谷頭にあたり、この部分からの取りつきのために削られたものと考えられる。

城郭に関する記録は確認できていない。地元では曲輪Ⅱから数十m南東の岩山を鬼面城と伝えている。この付近に遺構は存在しないため麓から城に取りつく箇所が城跡として伝承されているものと推測する。



この成果品は、大分県の承認を得た森林資源情報データから作成したものである。（承認番号2-34号 令和2年8月5日）

第20図 三光上深水地区縄張り図（S=1/2,000）

報 告 書 抄 録

書 名	し ない い せき し くつ かく にん ちょう さ ちゅう きん せい じょう かん かく にん ちょう さ 市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査 (8)								
副 書 名	市内遺跡発掘調査概報								
巻 次	14								
シ リ ー ズ 名	中津市文化財調査報告								
シ リ ー ズ 番 号	第104集								
編 集 者 名	花崎 徹 丸山 利枝 末永 弥義 浦井 直幸								
編 集 機 関	中津市教育委員会								
所 在 地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111								
発 行 年 月 日	2021年3月30日								
所収遺跡名	ふりがな	所 在 地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積(m ²)	調査原因
市 内 遺 跡 試 掘 確 認 調 査	あいはら ひら たい せき 相原平畑遺跡	おおいたけん なか つ し おお あぎ 大分県中津市大字 あいはら ほん ち ほか 相原3144番地6外	44203	203290	33° 33′ 47″	131° 11′ 30″	20200525	104.5	浄水場配水池
	ちやうじや せしき かん が い せき 長者屋敷官衙遺跡	おおいたけん なか つ し おお あぎ 大分県中津市大字 ながそえ ほん ち 永添2303番地3	44203	203002	33° 34′ 05″	131° 12′ 19″	20200621 ~ 20200722	420	史跡整備工事に伴う緊急立 会調査
	かめやま こ ふん 亀山古墳	おおいたけん なか つ し おお あぎ し も い け 大分県中津市大字下池 なが おうま ほん ち ひつ 永826、合馬451番1外3筆	44203	203012	33° 35′ 14″	131° 13′ 14″	20200702	75	集合住宅建設
	おきだい ち く じょうり あと 沖代地区条里跡	おおいたけん なか つ し ちゅうおう まち 大分県中津市中央町 いちちようめ ほん 一丁目754番14	44203	203007	33° 35′ 23″	131° 11′ 24″	20200608	8	個人住宅建設
	おきだい ち く じょうり あと 沖代地区条里跡	おおいたけん なか つ し ちゅうおう まち 大分県中津市中央町 にちちようめ ほん 二丁目776番1	44203	203007	33° 35′ 13″	131° 11′ 28″	20201215	30	集合住宅建設
	おきだい ち く じょうり あと 沖代地区条里跡	おおいたけん なか つ し ちゅうおう まち 大分県中津市中央町 にちちようめ ほん ほか ひつ 二丁目637番1外2筆	44203	203007	33° 35′ 5″	131° 11′ 31″	20201018	30	集合住宅建設
	なか つ じょうか まち い せき 中津城下町遺跡	おおいたけん なか つ し えび す ま ち 大分県中津市蛭子町 さんちちようめ ほか ひつ 三丁目26外10筆	44203	203002	33° 38′ 11″	131° 11′ 30″	20200622	40	集合住宅建設
	なか つ じょうか まち い せき 中津城下町遺跡	おおいたけん なか つ し 大分県中津市 ほん ち 339番地	44203	203002	33° 38′ 32″	131° 11′ 27″	20200727	20	市道拡幅
	なりつね さき ぼら い せき 成恒笹原遺跡	おおいたけん なか つ し さん こう 大分県中津市三光 なりつね ほん ち ほか 成恒421番地1外	44203	203192	33° 32′ 17″	131° 12′ 34″	20200922	16.5	公民館建設
	ふくしま い せき 福島遺跡	おおいたけん なか つ し おお あぎ ふくしま ほん ち 大分県中津市大字福島762番地 ふきん ほん ち ふきん 1付近から723番地1付近	44203	203050	33° 33′ 45″	131° 13′ 18″	20200615	60	農道拡幅
ひがしはま い せき 東浜遺跡	おおいたけん なか つ し おお あぎ 大分県中津市大字 ひがしはま ほん ち ほか 東浜128番地外	44203	203147	33° 35′ 32″	131° 12′ 57″	20201104	40	市道新設	
か く ち く 加来地区	おおいたけん なか つ し おお あぎ 大分県中津市大字 か く ほん ち ひつ 加来219番外3筆	—	—	33° 32′ 25″	131° 12′ 58″	20201217	40	農道新設	
中 近 世 城 館 確 認 調 査	み す み い けい しゅう へん い せき 御澄池周辺遺跡	おおいたけん なか つ し おお あぎ 大分県中津市大字 おお さだ ほん ち 大貞209番地1	44203	203048	33° 33′ 59″	131° 13′ 4″	20200624	—	確認調査
	さん こう か み ふ じょう ず ち く 三光上深水地区	おおいたけん なか つ し さん こう 大分県中津市三光 か み ふ じょう ず 上深水	—	—	33° 30′ 44″	131° 15′ 52″	20200512	—	確認調査

ふりがな 所収遺跡名		種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
市 内 遺 跡 試 掘 確 認 調 査	あいばら はたい せき 相原平畑遺跡	集落	中世	ピット	なし	確認調査後、本発掘調査実施
	ちやうじゃ やしき かん が い せき 長者屋敷官衙遺跡	官衙	古代	建物・区画溝	なし	正倉城西端の総柱建物
	かめやま こふん 亀山古墳	墳墓	古墳	柱穴・溝状遺構	瓦質土器	なし
	おきだいち くじょうり あと 沖代地区条里跡	条里跡	弥生・古墳・古代・ 中世・近世	なし	なし	なし
	おきだいち くじょうり あと 沖代地区条里跡	条里跡	弥生・古墳・古代・ 中世・近世	なし	なし	なし
	おきだいち くじょうり あと 沖代地区条里跡	条里跡	弥生・古墳・古代・ 中世・近世	溝状遺構	土師器	工事により破壊されないため 調査後埋め戻し
	なか つじょうか まち い せき 中津城下町遺跡	城下町	近世	なし	なし	なし
	なか つじょうか まち い せき 中津城下町遺跡	城下町	近世	なし	なし	なし
	なりつね さき はら い せき 成恒笹原遺跡	祭祀	古墳	なし	なし	なし
	ふくしま い せき 福島遺跡	集落	縄文・弥生・中世	なし	なし	なし
	ひがしはま い せき 東浜遺跡	集落	古墳	なし	なし	なし
か く ち く 加来地区	—	—	柱穴・溝状遺構	瓦質土器	確認調査後、本発掘調査実施	
中 近 世 城 館	み すみいけしゆうへん い せき 御澄池周辺遺跡	包蔵地	古墳	堀	なし	薦神社南に遺構あり
	さん こうかみふこうず ち く 三光上深水地区	—	—	曲輪・堀切	なし	尾根鞍部を挟んで遺構あり
要 約		亀山古墳にて溝状遺構を確認した。沖代地区条里跡では6世紀代の溝状遺構を確認した。中近世城館調査は御澄池周辺遺跡・三光上深水地区にて縄張り図を作成した。				

**市内遺跡試掘確認調査
中近世城館確認調査（8）**

市内遺跡発掘調査概報14
中津市文化財調査報告 第104集

2021年3月30日

発行 中津市教育委員会
印刷 榑川原田印刷社